

《今年のハイキングは 高尾山》

2026年4月19日 絶好の登山日和に恵まれて「高尾山」へ行ってきました。

朝9時30分に小林、濱田、本間、そして久保田の4人が高尾山口駅に集まりました。駅からケーブルカー乗り場に向かう人波は途切れることなく、さすがに年間300万人余りが訪れる人気の山です。

ほとんど待つことなくケーブルカーに乗り込んだ4人は、あっという間に標高472mの山上駅に到着です。そこからしばらく1号路を進み、4号路へと歩みを進めます。

4号路にはニガイチゴやヒトリシズカなどの春の花が咲いており、人の流れも少なく、静かな山歩きを楽しめます。途中吊り橋で記念撮影。それほどの急坂もなく、10時40分には599mの頂上に到着です。



頂上からは富士山がくっきりと望まれ、富士山をバックに写真を撮っていただきました。それにしても頂上はすごい人の数です。「高尾山」の山名表示の前には、10メートルくらいの記念撮影待ちの列ができていました。

腰をおろせる所を探し、少しお腹に食べ物を入れました。おにぎりを食べながら見上げた周りの樹々は、新緑に彩られ、俳句の季語「山笑う」がぴったりの景色です。



下りは、1号路を行き、中腹にある薬王院にお参りです。薬王院は天平16年（744年）に開山された古刹で、飯縄大権現を祀っています。ちょうど春季大祭が行われており、山伏がほら貝を吹きながらの行列や可愛らしいお稚児さんの行列など、珍しく拝見しました。

その後、人混みを嫌って2号路の少し急な道を琵琶滝まで下ります。そこからはなだらかの道を行き、13時にはケーブルカー乗り場の登山口まで戻ってきました。

参道には、お土産屋さんやお蕎麦屋さんが並び、濱田さんと私は焼き栗をお土産に買いました。そして蕎麦の名店「高橋家」にて反省会です。生ビールでのどを潤し、とろろ蕎麦などをいただきました。

時間も早いので TAKAO 599 MUSEUM に寄り、高尾山に生息する植物や昆虫などの標本やタヌキやムササビの剥製などの展示をゆっくり眺めました。

その後、高尾山口駅に戻り、心地よい疲れに身を任せながら帰路につきました。



【報告、撮影：久保田幸雄】